

2021年度学校評価報告書

1、教育

教育理念 : **美しい心情 豊かな感受性**

教育目標

心身の調和的発達と個性才能の適期適正教育を目標とし、
次の教育方針をもって教育する。

- | |
|----------------------------|
| 1、健康で明るく はきはきした子どもの育成 |
| 2、よく見 よく考え ねばり強く行動する子どもの育成 |
| 3、友達と仲よく 親切にする子どもの育成 |

*年齢別指導目標

1

健康で明るく はきはきした子ども



3才：生活リズムを整え元気いっぱい幼稚園生活を送る。
4才：好きな遊びを見つけ、伸び伸びと活動しながら運動能力を高める。
5才：意欲的に体を動かし充実した生活を楽しむ。

2

よく見 よく考え ねばり強く行動する子ども



3才：身の回りの色々な物に興味を持ちながら、自分の好きな遊びを見つけいっぱい楽しむ。
4才：先生や友達と一緒に、豊かな遊びや体験をいっぱい楽しむ。
5才：進んで興味を広げながら、友達と共通な目的を持って、遊びや生活を豊かに展開し楽しむ。

3

友達と仲よく 親切にする子ども



3才：気の合う友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。
4才：あそびの中で、友達と気持ちを伝え合う楽しさを沢山味わう。
5才：様々な活動や遊びを通して、考えや気持ちを伝え合う事の楽しさや温かさを味わう。

2、学年目標

- 3才児 ・日常生活に必要な望ましい生活習慣を身につける。
- 4才児 ・あそびの中で社会性や協調性を養う。
- 5才児 ・美しい心情 豊かな感受性

3、令和3年度 取り組み目標

* 一人一人が輝く幼稚園生活を目指して
《意欲的に活動する子どもを育てる》

- 1、こどもの今を大切に、こどもの生活リズムと発達を考える。
- 2、幼児期の望ましい生活を保護者と共に考える。
- 3、子どもが作り出す遊びと経験を考える。(令和3年度)

4、評価項目の達成及び取り組み状況

項 目	取り組み状況
1)教育・保育 の取り組み	・学年を超えての保育の振り返りを大切に進める中で、子どもたちの今必要な育ちが具体的に見えてくる。その繰り返しの中から望ましい保育へと繋げていくことの大切さを感じ進んでいる。
2)研究 ・研修 ・教育の質の向上 ・保育教諭の資質の向上	・リモート研修だから参加ができることを活かし、研修の幅を広げてきた。 ・遠藤利彦先生（東京大学教授・発達保育実践政策学センター副センター長）の講義をユーチューブで受講、園内研修へと進めた。実践と理論を組み合わせることはとても大切であり、保育教諭の学びの意識も高めていく。
3)環境整備	・コロナ感染が心配される中で、これまでの対策に加え、園舎内すべて（椅子・テーブル・おもちゃなど）に専門業者さんによる抗ウイルス抗菌コーティングを行い、感染対策につとめた。
4) 健康・安全	・園児のコロナ感染対策マニュアルを強化し、家庭での検温に加え、クラスでの全員検温を加え体調変化に一層の注意を払っている。職員の予防接種については、園医と相談し早めの対応を取り、高原検査・PCR 検査を利用しながら体調管理を徹底している。
5) 子育て支援 こどもの部屋	・コロナ禍での対応はとても神経を使うものではあるが、『子どもの部屋』を楽しみにしているお母さんも多いため、閉鎖になっても、ユーチューブを利用し「リラックスコンサートを開くなど、子育て中のお母さんに寄り添いながら進んできた。

5、総合評価

- ・昨年のコロナ禍での活動の中で、『できない』から『これならできる』へと保育が変わった。その中で、子どもたちは小さいながらも身を守る大切さを理解し、一生懸命に約束を守る意識も育っている。
- ・「一人一人が輝く幼稚園生活を目指し」保育に変化が見られた今年、子どもたちの思いを深めながら、活動の中での学びが次へと繋がっていった。

6、職員自己評価結果

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍2年目の中で、子どもたちの感染対策に注意を払いながら、日々の保育に精一杯かかわってきたことを感じる。・それぞれがしっかりと保育に取り組んできたことが評価されていた、その上で、さらなる専門知識を広げていきたいとの意欲も感じられた。・時間勤務の先生方の意識も高く、研修での学びの大切さが表れている。 |
|--|

7、取り組むべき課題

課題	取り組み
・保育・教育	・自園が向かう、保育・教育の共通理解を深める中で、行事や活動後のミーティングに時間をかけ、子どもの育ちの力を話し合う。 ・研修・記録・ドキュメンテーションなどズームやデーターでの操作が増えていく中で、積極的に使いこなせるよう取り組む。
・防災・安全管理	・コロナ感染、地震対策、アレルギーなど安全対策が益々大変になってくる中、それぞれの安全計画を職員全員で理解し、実践・訓練を通して見直していく。また、対応や方針を保護者にしっかりと伝え、理解し協力してもらうよう取り組む。
・食育	・新型コロナウイルス感染防止マニュアルを見直し、新しいウイルス対策へと改訂する。 ・新しく栄養士を採用することで、食育の幅を広げ色々な取り組みにチャレンジしていく。

8、 学校関係者評価

・運動会と音楽会を見学して

コロナウイルスの感染予防をしながらの準備は、相当のご苦労があったことと思います。

お弁当の無い半日の運動会は、どのような雰囲気なのかと思いましたが、マスク姿の保護者の方々を見てやっとコロナを思い出すほどで、たくさんの感動をいただきました。なにより、子どもたちの輝く笑顔、誇らしく演技する姿、友達を思いやる気持ちがあふれていて、半日とは思えないほどの充実した内容でした。

会場にいらした保護者の方々にも、幼稚園からのお願いや連絡が多数あったと思われませんが、きちんと伝わっていて大変協力的であり、スムーズな進行であったと思います。コロナが収まり、園児も保護者も大きな声で声援をおくれる運動会が開催されることを願います。

音楽発表会も素晴らしい内容でした。コロナ感染の心配から大人の世界でも音楽業界は厳しいものでしたが、音楽を楽しんでいる園児の姿に、豊かな指導があったことがよくわかる立派な演奏会でした。個性をより重視される社会にあって、自己表現の場としても音楽教育の重要性は大きいと思います。大きな舞台上で発表した経験は大きな自信にもなるでしょう。

失敗を恐れずチャレンジする子供になるには、どれだけたくさんの、そして多様な体験ができたか、それに伴う多くの失敗が経験できたかが大切なことだと思います。コロナの終息はすぐとは言い難く、大変なことも多いとは思いますが、毎日の園での生活はもちろん、行事を通して多くの体験をさせてあげて欲しいと思います。

保護者アンケートを見ると、園の教育理念等、おおむね理解と共感が得られているようです。

コロナということもあり、保護者が園に行く機会が少ないためか、5・6項目の園から保護者への伝達に工夫の余地があるようですが、少子化の中で、それだけ幼稚園への期待度が大きいということだと思います。

令和4年 4月

学校関係者評価委員

石井 康子